

令和2年度

(令和2年4月1日より令和3年3月31日まで)

事業報告

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

東京都港区高輪一丁目14番15号102

目次

第1章	概況	1
第2章	事業の状況	
1.	研究助成金の贈呈	1
2.	高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈	1
3-1.	高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催	2
3-2.	国際シンポジウム開催の助成	2
4.	国際講演会の開催	2
5.	AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成	3
6.	機関誌「CANCER」の発刊	3
第3章	管理事項	
1.	会議等に関する事項	
(1)	令和2年度第1回理事会 (通常)	4
(2)	令和2年度第1回評議員会 (定時)	4
(3)	令和2年度第2回理事会 (臨時)	4
(4)	令和2年度第3回理事会 (臨時)	5
(5)	令和2年度第2回評議員会 (臨時)	5
(6)	令和2年度第4回理事会 (臨時)	5
(7)	令和2年度第5回理事会 (臨時)	6
(8)	令和2年度第3回評議員会 (臨時)	6
(9)	令和2年度第1回学術委員会	6
(10)	令和2年度第6回理事会 (臨時)	7
(11)	令和2年度第7回理事会 (通常)	8
(12)	令和2年度第4回評議員会 (臨時)	8
2.	内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項	8
3.	内閣府からの連絡事項等	8
第4章	寄附に関する事項	9
第5章	附属明細書	
表1	令和2年度研究助成金受領者名簿	10
表2	令和2年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿	13

第1章 概況

当事業年度は、新型コロナウイルス感染の急速な拡大を受けた政府の緊急事態宣言の発出で幕を開け、その後1年に亘ってウイルス感染の拡大と収束が繰り返される中での事業運営となった。そのため、がん撲滅のため設立以来実施してきた公益目的事業のうち、海外から講演者を招聘し、多数のがん研究者が一堂に会する国際シンポジウムや国際講演会の開催は延期を余儀なくされることとなった。ただし、事業の柱であるがん研究者への研究助成金の贈呈と高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈は計画通り実施した。助成金受領者及び学術賞受賞者を招く贈呈式は実施が可能となる時期まで延期を決定した。また、財団の管理、運営面でもウイルス感染リスク回避を図る目的で一部テレワーク勤務体制や時差通勤の導入を図ることとなった。

当事業年度の収支は、経常収益については、主要な収入の株式配当及び債券利息収入が合計で161,334千円と前事業年度比16%減（前年度191,604千円）となったものの、寄附金収入は個人の方からの遺贈（15,116千円）が寄与し、指定正味財産増減の部の受取寄附金は前事業年度を上回る38,460千円（前年度35,049千円）を計上した。しかし、後述の事業費の減少に伴う公益事業収支部門黒字の状況を踏まえ受取寄附金振替は実施しないこととした。その結果、当事業年度の経常収益総額は、161,368千円（前年度240,087千円）となった。

経常費用については、当事業年度の研究助成金の採択件数を前事業年度同様の過去最大の40件とする一方、国際シンポジウムと国際講演会の開催延期に伴い事業費が大幅に減少し、経常費用総額は、156,561千円（前年度230,850千円）となった。

以上の結果、当事業年度の一般正味財産の当期増減額は、4,807千円の黒字（前年度9,237千円の黒字）となった。

第2章 事業の状況

1. 研究助成金の贈呈（定款第4条第1項第1号）（公益目的事業1）

当事業年度の応募件数は202件であり、この中から40件が採択された。受領者の氏名、研究題目等は、第5章・附属明細書・表1に記載のとおりである。1件当たり200万円を贈呈した。

選考は令和2年12月1日（火）開催の学術委員会において行なわれ、12月15日（火）、理事会の承認を得た。

贈呈式は、当初令和3年2月22日（月）、パレスホテル東京（東京都千代田区）において挙げる予定であったが、2回目の緊急事態宣言の発出前に延期を決定した。

2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（定款第4条第1項第2号）（公益目的事業2）

当事業年度の推薦件数は10件10名であり、この中から2件2名が選考された。1件当たり本賞の賞状と副賞500万円を贈呈した。

受賞者の氏名、研究業績等は、第5章・附属明細書・表2に記載のとおりである。

学術委員会における受賞者の選考及び理事会の承認は、上記1.の研究助成金受領者の選考と併せて行われた。贈呈式は延期を決定した。

3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催

(定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業3)

第51回高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムを次のとおり開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、次年度への延期を決定した。

(1) シンポジウム

主 題： がんの発生・進展における環境インパクトの新知見：原因究明から切り拓く最適予防
会 期： 令和2年11月17日(火)～19日(木)
会 場： パレスホテル東京 (東京都千代田区)
組織委員長： 津田 洋幸 博士 (名古屋市立大学特任教授)
組 織 委 員： Allan Balmain 博士
(カリフォルニア大学サンフランシスコ校ヘレン・ディラー・ファミリー総合がんセンター所長)
石川 冬木 博士 (京都大学大学院教授)
中釜 齊 博士 (国立がん研究センター理事長)
招 待 演 者： 海外から20名及び国内から11名を予定
討 論 者： 約200名

(2) 中原記念講演賞

本シンポジウムの特別セッションにおいて、中原記念講演を実施する。
当年度の講演者は、Arthur P. Grollman 博士 (ストーニーブルック大学薬理学部特別教授) を予定。

3-2. 国際シンポジウム開催の助成

(定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業3)

下記の学会が実施した国際シンポジウムに対し助成を行った。

第79回日本癌学会学術総会における JCA-AACR Joint Symposia
会 期： 令和2年10月1日(木)～3日(土)
会 場： リーガロイヤルホテル広島
助成額： 2百万円

4. 国際講演会の開催 (定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業4)

がんに関する講演会及び研究会開催の一つとして、下記の研究者を候補とする国際講演会開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、次年度への延期を決定した。

(1) 第一候補

Garry P. Nolan 博士
スタンフォード大学 微生物学・免疫学分野教授 (アメリカ)

(2) 第二候補

Aviv Regev 博士
ジェネンテック社副社長（アメリカ）

(3) 第三候補

Laurence Zitvogel 博士
パリ・サクレ大学ギュスターヴ・ルーシーがん研究所
免疫腫瘍学部門教授（フランス）

5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成

（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業5）

新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、バーチャルミーティングでの開催となった米国癌学会（AACR）の2020年度年会において、第14回 AACR 高松宮妃記念講演が行われた。講演者の選定は、電話会議方式による選考委員会において行われ、記念講演も、ビデオメッセージ形式での開催となった。

講演者：Tyler Jacks 博士

アメリカ・マサチューセッツ工科大学コッホ統合がん研究所所長

演題：単細胞レベルで細胞がん化過程を解剖する

講演日：令和2年6月24日（水）

会場：アメリカ・バーチャルミーティング

まず、関谷剛男理事長から故高松宮妃殿下の世界のがん研究に対する長年にわたるご支援並びに当財団の沿革・事業内容等についてビデオメッセージの後、バーチャル講演が行われた。

Jacks 博士に対し記念の盾及び副賞1万ドルを贈呈した。

6. 機関誌「CANCER」の発刊（定款第4条第1項第5号）

令和2年度（第51巻）機関誌CANCERを次のとおり発刊した。

発行日：令和2年11月25日（水）

発行部数：700部

第3章 管理事項

1. 会議等に関する事項

(1) 令和2年度第1回理事会（通常）

開催日：令和2年7月1日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事10名（総数10名）・監事2名（総数2名）・顧問1名（総数5名）

議案：① 令和元年度事業報告及び決算について
② 令和2年度第1回評議員会（定時）開催について
③ 次期役員候補者について
④ 新任評議員候補者について

審議結果：提案された4件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長及び常務理事より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(2) 令和2年度第1回評議員会（定時）

開催日：令和2年7月16日（木）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員11名（総数14名）
理事長、常務理事

議案：① 任期満了に伴う理事及び監事の選任について
② 新任評議員の選任について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、令和元年度事業報告及び決算について報告が行われ、評議員全員から承認を得た。

(3) 令和2年度第2回理事会（臨時）

開催日：令和2年7月22日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事9名（総数9名）・監事2名（総数2名）

議案：① 理事長及び常務理事の選定について
② 顧問の選任について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

(4) 令和2年度第3回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 山中恒夫前常務理事に退職手当を支給する件

② 関谷剛男理事長の勤務形態を非常勤から常勤に変更し、報酬額を変更する件

③ 令和2年度第2回評議員会（臨時）の書面決議提案の件

（令和2年9月30日（水）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事9名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和2年10月7日（水）

(5) 令和2年度第2回評議員会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 山中恒夫前常務理事に退職手当を支給する件

② 関谷剛男理事長の勤務形態を非常勤から常勤に変更し、報酬額を変更する件

（令和2年10月7日（水）提案書発送）

提案結果：理事が、評議員会の目的である上記事項について提案し、同提案につき、書面により評議員14名全員から同意の意思表示を得たので、定款第27条の規定に基づき、評議員会決議があったものとみなされた。

評議員会の決議があったものとみなされた日：令和2年10月19日（月）

(6) 令和2年度第4回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：令和2年度第3回評議員会（臨時）の開催について

（令和2年10月19日（月）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事9名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和2年10月26日（月）

(7) 令和2年度第5回理事会（臨時）

開催日：令和2年11月10日（火）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事9名（総数9名）・監事2名（総数2名）・顧問3名（総数4名）

議案：① 令和2年度事業計画の変更について

② 令和2年度収支予算の変更について

③ 令和3年度の主要事業について

④ 令和2年度第4回評議員会（臨時）の開催について

審議結果：提案された4件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(8) 令和2年度第3回評議員会（臨時）

開催日：令和2年11月10日（火）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員10名（総数14名）

理事長

議案：① 令和2年度事業計画の変更について

② 令和2年度収支予算の変更について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

(9) 令和2年度第1回学術委員会

開催日：令和2年12月1日（火）

開催場所：ホテルグランドパレス（東京都千代田区飯田橋1-1-1）

出席者：学術委員10名（総数10名）

理事長

議案：① 令和2年度研究助成金受領候補者の審査、選考について

② 令和2年度学術賞候補者の審査、選考について

③ 令和3年度（第40回）国際講演会の実施について

④ 令和3年度国際シンポジウム助成について

審議結果：① 202名の申請者の内、第5章・附属明細書・表1に記載の40名が選考された。

② 10件10名の候補者の内、第5章・附属明細書・表2に記載の2名が選考された。

- ③ 令和2年度の国際講演会の実施について、新型コロナウイルスの感染拡大により、開催は令和3年度に延期となり、状況を見ながら下記の講演者候補との交渉を再開することとなった。また、各委員から候補者がいれば、もう1名の候補者の推薦を依頼したい旨提案があり、了承された。

第1候補

Garry P. Nolan 博士

スタンフォード大学 微生物学・免疫学分野教授（アメリカ）

第2候補

Aviv Regev 博士

マサチューセッツ工科大学 生物学分野教授（アメリカ）

Laurence Zitvogel 博士

パリ・サクレ大学ギュスターヴ・ルーシーがん研究所

免疫腫瘍学部門教授（フランス）

- ④ 令和3年度国際シンポジウム助成について、助成対象を下記の学術総会で開催されるJCA（日本癌学会）-AACR（米国癌学会）ジョイントシンポジウムとすることとなった。

シンポジウムを開催する母体となる学術総会

名 称：第80回日本癌学会学術総会

テ ー マ：80年を超え、がん撲滅の願いを未来へ

学術会長：佐谷 秀行 博士（慶応義塾大学医学部先端医科学研究so教授）

日 程：令和3年9月30日－10月2日

会 場：パシフィコ横浜

(10) 令和2年度第6回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 令和2年度研究助成金受領者の決定について

② 令和2年度学術賞受賞者の決定について

③ 令和3年度（第40回）国際講演会の実施について

④ 令和3年度国際シンポジウム助成について

（令和2年12月7日（月）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事9名全員から同意の意思表示をまた監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和2年12月15日（火）

(11) 令和2年度第7回理事会（通常）

開催日：令和3年3月12日（金）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事8名（総数9名）・監事2名（総数2名）・顧問2名（総数4）

議案：① 令和3年度事業計画について

② 令和3年度収支予算について

③ 令和3年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

(12) 令和2年度第4回評議員会（臨時）

開催日：令和3年3月12日（金）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員8名（総数13名）

理事長

議案：① 令和3年度事業計画について

② 令和3年度収支予算について

③ 令和3年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項

- | | |
|-------------------------------------|--------------|
| (1) 令和元年度事業報告等の提出 | 令和2年7月30日（木） |
| (2) 変更の届出
（理事及び監事の改選並びに評議員の新規就任） | 令和2年8月18日（火） |
| (3) 変更の届出
（評議員数の減員） | 令和3年2月2日（火） |
| (4) 令和3年度事業計画書等の提出 | 令和3年3月30日（火） |

3. 内閣府からの連絡事項等

内閣府から公益法人宛には、不定期にメールにより情報連絡が行われる他、原則隔週水曜日に「内閣府 公益法人メールマガジン」が発行され、公益認定等委員会からの伝達事項、公益法人への依頼事項、公益法人の現況と運営へのアドバイス、テーマ別セミナーや相談会のお知らせ等が記載されている。

この情報連絡に関し、令和2年度に対応した事項はない。

第4章 寄附に関する事項

当事業年度に受け入れた寄附金は次のとおりであり、定款第4条に定める公益目的事業の費用に充当している。

・法人	40件	18,865,000円
・個人	91件	19,594,843円
・法人個人合計	131件	38,459,843円

第5章 附属明細書

表1 令和2年度研究助成金受領者名簿

以下の受領者に対し、1件当たり200万円の助成金を贈呈した。

代表研究者氏名	所属・職	研究題目
飯森 真人	九州大学大学院薬学研究院 抗がん剤育薬共同研究部門 准教授	がん老化細胞を制御する分子機構の解明と新たながん治療戦略の確立
伊川 友活	東京理科大学生命医科学研究所 免疫アレルギー部門 教授	新規がん誘導モデルを用いた急性リンパ性白血病発症機構の解明
石田 高司	名古屋大学大学院 医学系研究科分子細胞免疫学 特任教授	シングルセル解析および免疫ゲノム解析による、成人T細胞白血病/リンパ腫の分子病態、免疫病態解明と、モガムリズマブを用いた至適治療法確立
伊地知 秀明	東京大学医学部附属病院 病態栄養治療センター 講師	膵癌微小環境の多様性とTGF- β -ケモカインシグナルネットワークの病態における意義の解明
伊藤 心二	九州大学病院 肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科 併任講師	肝臓の微小環境における多様性のメカニズムの網羅的解析
井上 聡	国立がん研究センター研究所 細胞情報学分野 特任研究員	子宮体がん個別化医療に向けた至適診断・治療法の開発基盤の構築
井上 大地	神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター 血液・腫瘍研究部 グループリーダー	プロモドメインファミリー分子のスプライシング異常を介した発癌機構の解明と治療応用
魏 范研	東北大学加齢医学研究所 モドミクス医学分野 教授	RNA修飾に基づくがん細胞の環境ストレス耐性獲得の分子基盤の解明
垣内 伸之	京都大学大学院 医学研究科腫瘍生物学講座 助教	網羅的ゲノム解析による原発性硬化性胆管炎の病態と発がん基盤の解明
片岡 直行	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授	スプライシング因子変異が引き起こすエピジェネティック異常を標的とした新規癌治療法開発研究
加留部謙之輔	琉球大学大学院 医学研究科細胞病理学講座 教授	空間的多様性を伴う病変の網羅的遺伝子解析による成人T細胞性白血病/リンパ腫の病態解明
川内 大輔	国立精神・神経医療研究センター 病態生化学研究部 室長	マウス発生工学と腫瘍ゲノム学を駆使したエピジェネティックな脳腫瘍形成メカニズムの解明
北川 大樹	東京大学大学院 薬学系研究科 教授	ヒト骨髄性白血病細胞に特異的な紡錘体形成機構の解析と創薬への応用

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
北 嶋 俊 輔	がん研究会がん研究所 研究員	MPS1を標的とした免疫チェックポイント阻害 剤治療抵抗性を克服するための新規治療法の 開発
河 野 隆 志	国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 分野長	リアルワールドエビデンスに基づくアジア高 発婦人科がん個別化治療法の実装
古 屋 淳 史	国立がん研究センター研究所 分子腫瘍学分野 主任研究員	B細胞リンパ腫特異的PD-L2発現制御分子基盤 の網羅的検討
小 山 正 平	国立がん研究センター 先端開発医療センター 免疫トランスレーショナル リサーチ分野 ユニット長	免疫セマフォリンによる抗腫瘍T細胞の機能 制御に関する臨床検体を用いた検討
齊 藤 康 弘	慶應義塾大学先端生命科学 研究所 特任講師	エストロゲン受容体陽性乳がんの特異的な 代謝経路の解析
佐 伯 浩 司	群馬大学大学院 総合外科学講座消化管外科学 教授	放射線照射で誘導されるメモリーCD8T細胞を 活性化させる新規免疫アジュバント療法の開 発 ～新規マウス腫瘍モデルを用いて～
佐 藤 卓	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 生体防御学分野 講師	患者由来食道がんオルガノイドを用いた、が んの薬剤耐性獲得機構の解明と制御
清 島 亮	慶應義塾大学 医学部外科学教室 助教	大腸癌肝転移における癌関連線維芽細胞出現 メカニズムの解明
高 橋 良 太	東京大学大学院 医学系研究科消化器内科学教室 助教	膵臓癌におけるVCAM-1標的療法の作用機序解 析と臨床応用を見据えた治療効果解析
田 所 優 子	金沢大学がん進展制御研究所 助教	遺伝子異常に依存した食餌性ストレスによる 白血病進展機構の解析
谷 口 博 昭	慶應義塾大学病院 医学部腫瘍センター 特任准教授	変異KRASのタンパク質相互作用をターゲティ ングする新規抗悪性腫瘍薬スクリーニング系 の構築
内 木 綾	名古屋市立大学大学院 医学研究科実験病態病理学 准教授	肝細胞ギャップ結合異常とエクソームを介し た肝星細胞の活性化による新規非アルコール 性脂肪肝炎(NASH)モデルにおける肝発がん機 序の解析
中 岡 博 史	佐々木研究所附属佐々木研究所 腫瘍ゲノム研究部 部長	子宮内膜症発症におけるオリゴクローン性増 殖モデルの検証
仲 矢 道 雄	九州大学大学院 薬学研究院薬効安全性学分野 准教授	腫瘍形成における新規癌関連線維芽細胞の生 理的役割解明
西 原 広 史	慶應義塾大学医学部 臨床研究推進センター 教授	ゲノムプロファイルと病理形態学的診断に基 づく、統合的病理・遺伝子診断システム開発

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
細川 裕之	東海大学 医学部基礎医学系生体防御学 特任講師	T細胞初期発生におけるガン遺伝子PU.1の発現抑制メカニズムの解明
本田 一文	日本医科大学大学院 医学研究科生体機能制御学分野 大学院教授	早期膵がんおよび膵がんリスク集団層別化のための血液バイオマーカー開発
前川 大志	愛媛大学プロテオサイエンス センター 特任講師	HER2陽性乳癌の新規治療薬開発に資する新しいEGFR脱リン酸化機構の構造生物学的解析
牧野 知紀	大阪大学大学院 医学系研究科外科学講座 消化器外科学 学部内講師	免疫モニタリングによる上部消化管がん免疫応答機序の解明とその臨床応用
皆川 茜	信州大学 医学部皮膚科学教室 助教	足底メラノーマの発症に関わる皮膚エイジングの解析および診断への応用
村田 和貴	千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学講座 特任助教	難治性大腸がん治療開発を目指した腸管上皮幹細胞再生における転移因子Asc12の役割と作用機構
森下 和広	宮崎大学 医学部機能制御学講座 腫瘍生化学分野 教授	HTLV-1キャリアへの日和見感染により促進される成人T細胞白血病(ATL)発症機構の解明
山下 継史	北里大学 医学部先進外科腫瘍学 教授	癌抑制遺伝子HOPXの癌抑制分子機序解明
横井 暁	名古屋大学医学部附属病院 産科婦人科 助教	がんゲノム搭載細胞外小胞を対象とした新たなリキッドバイオプシー戦略
吉岡 研一	国立がん研究センター研究所 ゲノム安定性制御研究ユニット ユニット長	ゲノム安定性の維持・制御を作用点としたがんのリスク制御機構の研究
吉見 昭秀	国立がん研究センター研究所 がん RNA 研究ユニット 独立ユニット長	スプライシング解析を活用した脳腫瘍バイオマーカーの創出
渡邊 すぎ子	大阪大学 微生物病研究所 遺伝子生物学分野 准教授	細胞老化に伴うゲノム不安定性検出を目指した核外ゲノム次世代シーケンスと、がんのゲノム構造変異発生の分子機構

(五十音順 敬称略)

表2 令和2年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿

以下の受賞者に対し、1件当たり500万円の賞金を贈呈した。

受賞者氏名	所属・職	研究業績
竹内 賢吾	(公財)がん研究会 がん研究所 病理部長・所長補佐	組織病理学を基盤とした融合キナーゼ遺伝子群の同定とその診断法への応用
原 英二	大阪大学微生物病研究所 遺伝子生物学分野 教授	発がん制御における細胞老化の役割と作用機序の解明

(五十音順 敬称略)